

第 23 回国際測地学・地球物理学連合 (IUGG) 2003 年総会の開催について

1 国際測地学・地球物理学連合 (IUGG)

IUGG (International Union of Geodesy and Geophysics) は、地球・惑星科学研究及びその国際的な展開に必要なものの促進を目的に、1919 年に設立された国際的、学際的、網羅的な組織で、現在 76 カ国が加盟、傘下に 7 つの協会を持つ。

< 加盟団体 > 国際測地学協会 国際地震学・地球内部物理学協会 国際火山学・地球内部科学協会 国際地球電磁気学超高層物理学協会 国際気象学大気科学協会 国際水文化学協会 国際海洋物理化学協会

2 IUGG 総会について

IUGG 総会は、7 つの協会が一堂に会して 4 年毎に開催され、札幌総会はアジアで初めての開催となる。

(1) 主 催

日本学術会議、日本測地学会、(社)日本地震学会、日本火山学会、(社)日本気象学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、水文・水資源学会、日本水文科学会、(社)日本雪氷学会、日本海洋学会、日本惑星科学会、日本陸水学会、(社)土木学会、日本地下水学会、日本温泉科学会、(社)砂防学会

(2) 会 期

2003 年 6 月 30 日 (月) ~ 7 月 11 日 (金)

(3) 会 場

歓迎式典会場は札幌コンベンションセンター。会議場はロイトン札幌、北海道厚生年金会館、札幌市教育文化会館、札幌メディアパーク。セッションは毎日約 30 会場で開催

(4) 参加人数 (予定)

約 5,000 名 (内海外 2,500 名)

3 日 程

6 月 30 日 (月)	参加登録、総合講演
7 月 1 日 (火)	総合講演
7 月 2 日 (水)	総合講演、歓迎式典
7 月 3 日 (木) ~ 7 月 5 日 (土)	総合講演
7 月 7 日 (月) ~ 7 月 10 日 (木)	総合講演
7 月 11 日 (金)	総合講演、閉会式

7 月 2 日 (水) 天皇・皇后両陛下をお迎えし、ロイトン札幌の展示ブースを御覧いただくとともに、札幌コンベンションセンターにて歓迎式典等御臨席

4 市民向けプログラム概要

IUGG 市民大学講座 (IUGG 各分野を網羅した市民向けのシリーズ講演、会場: ロイトン札幌)

中学生ミーティング (環境学習の成果をもとに、IUGG 参加者の科学者と地球温暖化について議論、会場: 札幌コンベンションセンター)

小学校出前授業（IUGG参加の著名な世界の学者が市内及び石狩管内の小学校に授業を出前）

ジュニア・セッション（中・高等学校の研究発表ポスターセッション、会場：ロイトン札幌）

青少年科学館特別プログラム（IUGG 関連の講演・実験・展示を札幌市青少年科学館、札幌市民防災センター、滝川市こども科学館、小樽市青少年科学技術館等との連携で実施）

地方特別講演（虻田町、奥尻町、陸別町、釧路市、滝川市、浦河町、弟子屈町、倶知安町等）

「フルカラー・全天周デジタルプラネタリウム」（会場：ロイトン札幌）

5 最近の IUGG 総会の開催地

開催年	開催地	参加国数	参加者数 名	うち日本人 名
1922 年（第 1 回）	ローマ（イタリア）	10 か国	20	4
1983 年（第 18 回）	ハンブルグ（ドイツ）	79 か国	3204	104
1987 年（第 19 回）	バンクーバー（カナダ）	75 か国	3939	240
1991 年（第 20 回）	ウィーン（オーストリア）	78 か国	4331	250
1995 年（第 21 回）	ボールドー（アメリカ）	78 か国	4525	269
1999 年（第 22 回）	バーミンガム（イギリス）	81 か国	4052	411

6 札幌開催までの経緯

1997 年 国内に 2003 年 IUGG 準備委員会が発足、総会の日本誘致を決定。国内主要 10 都市の開催可能性調査を開始。札幌市・札幌国際プラザが誘致活動を展開

1998 年 国内開催候補地として札幌市を決定

1999 年 IUGG バーミンガム（イギリス）総会の会場にて IUGG 加盟国代表者による投票により、インドのハイドラバード市を破り、札幌市が 2003 年大会の開催地に決定

7 IUGG 総会開催の意義

(1) 札幌で過去最大規模の国際学術会議

IUGG 総会は、過去最大規模の国際学術会議であり、この会議の開催は、国際コンベンション都市づくりを目指している札幌市にとって、国際的知名度を高めるよい機会であり、札幌市の地域的な特色や魅力を世界に PR する格好の機会となる。また、今後のコンベンション誘致にあたって、総会の開催地実績が札幌のプレゼンテーションに大きな役割を果たす。また、約 2 週間の会期中の参加者による宿泊・飲食・お土産購入等の消費効果も期待される。

(2) 21 世紀最初の会議を札幌で開催

地球規模の人類共通の課題への取り組みが問われる中、世界の地球・惑星科学研究者が一堂に会するこのような会議のアジア地域初開催に札幌市が協力することは、地球・惑星科学の研究及び研究者間の交流促進に寄与するものであり、自治体レベルの国際協力の一形態として注目される。

(3) 地域社会への貢献

札幌市も大いに協力し、この総会に参加する世界の第一線の研究者を講師とする「IUGG 市民大学講座」や「中学生ミーティング」「小学校出前授業」など多くの市民参加プログラムを用意しているが、これにより研究者と子どもを含めた市民レベルの交流が図られ、地球環境等に対する関心を高め、環境に配慮した地域社会活動の広がりの契機となることが期待される。

問い合わせ先	国際プラザコンベンションビューロー	根子（ 211-3675 ）
	コンベンション推進課	日下（ 211-2388 ）